



# 「東京庄原格致会」で 伝統を守る



東京庄原格致会会長  
兼 利卓蔵  
【略歴】  
西城町出身、母校二十八年卒業。趣味はクラシック音楽。

会員の皆様、益々ご健勝にしてご活躍の事とお喜び申し上げます。平素は本会の運営につきまして格別のご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

皆様方、ご存知の通り、名称変更につきましては会員方々の数多くのご意見やご指導を賜り、前同窓会平成十七年度に於いて本会の名称を「東京格致会」より「東京庄原格致会」に出席者多数の賛同を頂きまして変更致しました。(尚、変更理由につきましては前会報に記述通りです。)

先輩方の努力で現在まで、同窓生の皆様を育てて呉れた古里の母校を想い、建学の精神「格致致知」の伝統を継承され、この誇りを持って同窓生間の親睦を図ってこれたものと存じます。

この伝統を保持し、本会を継続していくには各同窓生の方々の積極的な参加が必要であります。ここに同窓生の方々の意を結集致しまして、互いに健康を保ち、相互の親睦を重視する事と母校の繁栄並びに将来のリーダー育成の為に多少なりとも助力が出来ればと考える次第です。

本同窓会の名称変更が単なる変更にならない事を望みます。再度考える事ですが、先ずは親睦会としての年一回の総会に同窓生の方々が元気で気楽に参加され、お互いに古き日の思い出を語り、又現在の情報交換等が出来ればと思います。

より強固な親睦を深める為に左記の通り現在三つの同好会を開催致しております。関心をお持ちの方は是非ご参加ください。

一、【ゴルフ同好会】  
今年で第三十四回を数えます。  
年二回(春と秋)

二、【囲碁同好会】  
頭脳を鍛え楽しめる、月一回開催、ホテルでの競技あり。  
三、【日帰りバス旅行同好会】今年で四回  
特に今回はカルチャーとして陶芸教室を。開催は年一回(四月か五月)。

※お申込みは事務局又は役員までお願い致します。

## いっしょ



広島県立  
庄原格致高等学校校長  
河野正憲  
【略歴】  
昭和四十一年向原高校卒業  
東京理科大学卒業後教職に  
平成十三年向原高校長  
平成十七年四月より現職

東京庄原格致会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年の東京庄原格致会総会では大変お世話になりました。お陰さまで楽しい時間を過ごさせていただきました。

皆様には、平素から本校教育の充実と発展のためにご理解とご支援をいただき感謝申し上げます。

特に、三月には森田千里先生を派遣くださりありがとうございました。「比婆の山から、通うて三十五年住んで十五年インドヒマラヤ」というテーマで講演いただきました。高校時代の思い出を通して、高校時代の実体験の大切さやヒマラヤの厳しさ・素晴らしさ、さらには強い夢・希望もつて生きる事の大切さ等を後輩に話して下さり、生徒も深い感銘を受けたようです。

本年度は、庄原市の中学生の減少等に

より入学定員は三学級となりましたが、希望に燃えた一二〇名の新入生を迎え、また新たな出発をいたしました。  
この一年間の主な行事は、次のとおりです。

- 四月……入学式
  - 新入生オリエンテーション・シンポジウム
  - 新入生歓迎遠足(備北丘陵公園)
  - 五月……格致祭(文化祭)
  - 六月……県総合体育大会
  - 七月……クラスマッチ(球技大会)
  - 八月……学習合宿
  - 格致祭(体育祭)
  - 九月……演劇鑑賞(オペレッタ公演)
  - 十月……修学旅行(二年・関東)
  - 十一月……センター試験対策合宿(三年)
  - 十二月……校内ロードレース大会
  - クリスマスコンサート
  - 一月……センター試験
  - 三月……卒業式
- 本校は、「自律し挑戦する若者の育成」を目的とし、  
「学力向上と進路指導の充実」  
「生徒会活動・クラブ活動の活性化と自律性・社会性の育成」  
「開かれた学校づくり」を目標に掲げ、教職員力を結集して、信頼され、地域から選ばれる学校づくりを目指してまいります。
- 学力向上については、今春の卒業生の状況は、国立大学の合格者は、三十二名という結果でした。目標を高く掲げ、後期試験まであきらめずに努力するという方針が定着してきた結果であると思っています。私立大学につきましては、関東関西の難関大学へ多数合格しました。
- 卒業生それぞれが最後まであきらめずに各自の進路実現をめざし、頑張りました。
- また、クラブ活動においても、今年度も全校生徒の九割以上が加入し、活発に活動しています。
- この春の地区総体では、大変活躍し、十一の部が県大会に出場しました。なかで

も、なごなた部、ソフトテニス部は中国大会に出場、特になごなた部はインターハイ出場となりました。

文科系クラブにおきましても、写真部は今年も全国大会に出場します。

先輩諸氏の築かれた文武両道の伝統を受け継ぎ頑張っています。

四月以降、庄原市内・三次市内の中学校を訪問し、パンフレットを配布し、本校の方針・取組み・実績などを説明しています。

庄原格致高等学校の発展に向けて最大限の努力を重ねていくつもりですので、皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

なお、本校の情報につきましては、インターネットで「格致高校」を検索し、ホームページをご覧ください。

最後になりましたが、東京庄原格致会の方針・ご発展と、会員の皆様のご健康・ご多幸を心からお祈り申し上げます。

## 同窓会の力を



同窓会会長  
伊達正治  
【略歴】  
昭和十八年卒業。母校の校長及び他の高校長を歴任。広島県立公立高等学校校長協会会長。文部大臣教育表彰・勲四等瑞宝章叙勲受章。現在、庄原地区福祉協議会会長。

東京庄原格致会会員の皆様には其の後益々ご健祥にてご活躍のことと推察致します。萬物流転、最近の世の中の変化は特に激しく、時の流れが加速度的に速く感じられます。

今年も早や緑濃き六月の季節を迎え、自然界は悠然と「年々歳々花相似たり」の風情ですが、人間界は「歳々々人同じからず」で誠に人生は無情であり喧騒としています。

年一回の総会に参加して同窓・同郷の絆を確かめ互いの無事を喜びあうことが出来ることは実に至福の瞬間であります。「やむをえずして出ずる花」の如く心の奥底からありがたく感謝と祝福の念がこみあげてくるのを覚えます。

顧みますと、長い歴史を誇る母校は、敗戦前の軍国主義教育を受けた世代と敗戦後の民主主義教育を受けた世代とさまざまあります。更に敗戦による学制改革で「格致」という校名が消えた空白の十年間があり、又昭和二十五年（一九五〇）火災によって校舎が全焼すると言う悲劇もありました。これら幾多の変遷を経て今日ある母校に対する同窓生の皆さん方の思いは千差万別さまざまであろうと推察いたしますが、青春に学んだ内なる魂は同じ格物致知の格致精神で結ばれているのです。

昭和三十六年（一九六一）母校は格致学院誕生の地へ名実共に復帰して一万五千有余の同窓生の方々の厳然たる心の拠りどころとなつて現在に至っています。

御承知のように八年前（一九九八年）文部省から広島県教育に対する強い是正指導がありました。以来県教育界の実態が激変したことに因り、三月十二日付の中国新聞は次のように報じています。即ち「職員会議は今「伝達の間」でしかなくなり、学級通信一つ出すにも起案―許可が必要、また職員会議で質問にも答えてもらえず、何を言ってもだめだとの雰囲気、また事務的な仕事に追いまくられて、子どもに接する時間が削られ教材づくりもできない。数値目標が強調されるで会社のように。子どものために頑張っているという実感がわかない。教師としての「幸せ感」がうせて気が続かなくなつたという。（以下略）」

このように教師が心理的、時間的にゆとりを失い閉塞感を抱いて定年前退職が増加している現状を訴えています。

現在各学校現場には優れた教育機器が導入されていますが、機器には魂はありません。本来、教育は生徒と教師の魂と魂との

ふれあいによる営みです。教師が元気で情熱がなければ、生徒も若さと情熱を發揮できません。

果たして母校格致の教育はどうなのか。このような県教育界の傾向に影響されることなく活気のある格致教育が展開されるように同窓生の皆さんと共に同窓会の力を結集して、母校を支援したいものと考えております。

会員皆様の平素のご指導ご協力に感謝し、欄筆いたします。



後輩（進路講演会）に招かれて

比婆の青春を、

インドヒマラヤの生活を語る

二十五年卒

森田千里



【略歴】  
一九三二年生まれ。山之内東で育つ。格致自然科学部出身。一九五六年東京理科大学卒、岡山岳部出身。東京大学教育学部勤務後、巖市内の中学校で教員生活を送るかたわら、日本勤労者山岳連盟会長等歴任。現在、インド・ヒマラヤで山荘「風来坊」経営。日本ヒマラヤ協会会員、インドヒマラヤ・トレッキングガイド協会理事等

卒業以来、はじめて、五十六年振りの母校訪問でした。今浦島でボカーンとしてみていました。よく昼寝した松原もなく、一面さみしく感じましたが、勝光山には少々雪も残り、当時がよみがえって来ました。

後輩諸君は、なんともおとなしく静かに聞いてくれました。もうこの年になれば、

恥ずかしさもなく、孫に語るジジイでありました。勝手なことをくっちゃべったのであります。中味は、生徒・校長の文で判断ください。

同級の室伏孝一君が同行してくれ、国兼池や七塚原も車で案内してくれました。比婆の山々、豊かな自然のやわらかなたたずまい、浅い春のしっとりとうるむような香り、苦しかったと思つた少年時代も、美しい青春のかげろりの様な遠い日々となつていました。なんとか、故郷への一つのお礼にでもなれば嬉しいことです。

夜は、室伏君の姪御さん（七塚原自然体験活動研究センター）のきもいりで、七塚の高原の家で格致の生物部の若い卒業生や、小生の同級・先輩たちといっぱいやりながら楽しい夜を過ごしました。

兼利会長に一杯飲んだ時、うまくだまされて、引っぱり出されて、しまった！と思つたのですが、楽しませていただいて感謝しております。

みなさん是非、元氣なうちに、インド・ヒマラヤに足をのばして下さい。待っています。

（二年生Qさんの感想から）

今日は講演を聞かせていただき、ありがとうございました。森田さんの少年時代の話や、インドでの生活の話が聞けてとてもおもしろかったです。私は帝釈出身なので、しょう乳洞の話や、かたつむりの話はすごく身近に感じましたし、私も自然が好きなので、スライドを見たときは感動しました。空・山・湖など、風景が全て、とてもキレイで、花も沢山の種類があつてキレイで、何枚もの写真を見ていくうちに不思議な感じで、引き込まれ、すごく魅力を感じました。本当にヒマラヤに行つて、自然の中でのびのびとした時間を過ごしてみたいなあ、と思いました。それに、インドには沢山の言葉や民族や宗教があると聞き、驚きました。そのような環境で、一つの大きな国がまとまっているというのはすごい

## 酒井会計事務所

税理士 酒井久幸  
(昭和25年卒)

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町  
2-13-4  
電話 (03) 3255-8995

## 洋光繊維株式会社

代表取締役  
木村貞寧  
(昭和25年卒)

〒130-0004 東京都墨田区本所4-9-10  
電話 (03) 3623-3176

と思ったし、どんなに自分と違う人が目の前に現れても、気にせず受け入れられるというのは、日本と比べると全然違うので、考えさせられました。今日の森田さんの話を聞いて、森田さんの生き方はカッコイいなあ、と思いました。私も、人に迷わくをかけないように、自分の好きなことを沢山して、沢山学び、人の役に立てるようになりたいなあ、と思いました。

(校長先生のお礼状から―抜粋―)

生徒たちは、大先輩の高校時代の話や、地質調査や洞窟の探検、インドのお札の話、また「意思のあるところに道がある」や「自分でみて自分で触ること」、「ことばが通じないのが当たり前」「カラーテレビが普及してから恐ろしいスピードで変化している」などの行き方や平明な文化論を聞くことができ、大変興味を持ったようです。

講演の終わりに紹介していただいたヒマラヤ山麓に咲く美しい花に感動したとの感想文も多くありました。

寄贈していただいたアンモナイトの化石やトルマリンなどの鉱石は、理科の貴重な教材として大切にさせていただきます。

### 生涯学習との出会い

四十一年卒

戸丸 久恵  
(旧姓 野津山)



【略歴】  
四十二年四月警視庁警察学校入校、同年十月から四十四年十二月まで婦人警察官として警視庁勤務。平成一二年四月嘱託員として警視庁勤務、一七年三月退職。

平成九年十二月、初冬のことでした。二週間程、遅くなりましたが、お二人の結婚記念日のお祝いに、「一緒にお食事をしましょう。」と前年(平成八年六月)に嫁いだ

娘夫婦から誘いを受けた。

初冬にしては、とても暖かな澄んだ青空の日曜日のお昼。国立の大学通りを少し東に入った閑静な住宅地の中に位置する、イタリアンレストランに向いた。

オシャレな店内の、温かな窓側に四人の席が予約してあった。毎週末には、必ず二人で我が家を訪ねてくる娘に「本当に嫁に行ったのか？」と嬉しそうにする夫を思い出しながら、又、今日も一段と嬉しそうに食事をし、ワイングラスを持つている幸福な笑顔を見ながら、あつという間に二時間が経ってしまった。

食後は、国立駅周辺を散策することになり、まず洋菓子店、婦人服、ブティック、本屋、ギャラリー！そこで急ブレーキ！！

やさしい花の染付けの大皿に小鉢にお茶碗……たぐさんの食器が一階と二階のフロアーに所狭しと、上品にセッティングされていた。

陶芸家、花原ひろこ先生個展最終日だった。白地に藍(具須)の絵の優しさ通りのお人柄の先生と会話が弾み、八王子美山町に工房をお持ちの事、八王子駅近くで陶芸教室の講師をなさっている事……等を知っているうちに、私の心は熱くなり、希望に胸膨らむ青春時代に感じた、胸の高鳴りを意識していた。それから一週間後、私は陶芸教室の見学に向かっていた。その場で入講を決め、その日のうちに土に触れていた。

今、土と触れあってから八年目を迎えているが、あの国立でのひろこ先生との出会いが、私の生涯学習を見つけるきっかけとなったのです。このことは、娘達からの大きな大きなプレゼントでした。

休日には器のデザイン、染付けの絵柄をスケッチブックにワクワク!!ドキドキ!!しながら夢中になって描いています。土に触る前段階のとても楽しい大切な時間なのです。

陶芸に夢中になって私に又々思いがけ

ないプレゼントがありました。

翌年の私の誕生日に、二人の息子達が電動ろくろをプレゼントしてくれたのです。有難い思いと共に、中途半端な気持ちでは取り組めなくなり、良いプレッシャーがかかり、益々作品の数が多くなってきたのです。

ちょうどそんな時、友人から、「個展を開かないか」との誘いを受けた。友人の事務所をオープンしての事。

家族と相談の結果、これも有難いお話と受けとめ、又々、胸の高鳴りを感じながら、初めて、オリジナル作品展を開かせていただいた。

恥ずかしながら、好評をいただき、次回へのセッティングやら、注文をいただくなど、成功したのかなと喜んでる次第。

そんな矢先、夫から職場の職員美術展への出品を勧められ大皿を出品したところ、賞をいただき、日本橋の某デパートに展示され、テレビのニュースにも流されたこともあり、思わぬ反響をいただき、益々、陶芸への熱が高まってきたのです。

家族には迷惑のかわらないところで楽しんでいた陶芸が、家族の応援を得て、もっと確かな生涯学習になってきた今、思うことは娘や息子達に、そして孫達に、こんな素晴らしい陶芸を伝承していきたい!!

格致高校を卒業して四十年という時が経った今も、胸の高鳴りを覚える、青春真っ只中なのです。



東京広島県人会のホームページに東京格致会の同窓会だよりを掲載しております。一度、開いてみてください。  
(アドレス <http://hikken.gr.jp>)

ホームページをカンタン作成!

るんるん!

ウェブマスター

<http://www1.webasp.jp/>

飯能ケーブルテレビ(株) 埼玉県飯能市小久保19-1  
(飯能・日高) TEL 042-974-3611  
41年卒 和泉 由起夫



西葛西・井上眼科病院

院長 宮 永 嘉 隆

(昭和 28 年卒)

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西5-4-9  
TEL 03-5605-2100 (代)



# 高校卒業から早や三十七年

四十五年卒

北田 耕 二

〔略歴は文中に〕



昭和四十五年、庄原格致高校を卒業後、当時の電電公社に入社し

ましたが、これまで十三回の転勤、九回の転居を重ね、現在NTTドコモ渋谷支店に勤務し、千葉から約一時間半かけて通勤しています。家族は、妻となかなか定職に就かない長男、この春就職した自己中心型の長女、老いて益々気丈な義母の五人といった状況です。東京での勤務も通算すると三十二年になりますが、その経緯を簡単に紹介させていただきます。

私は、庄原市川北町の出身で、父を中学一年の時に亡くしたこともあり八歳年上の兄の影響を強く受け、電電公社に就職していたその兄から、公社の中に大学部があった給料をもらって学校に行けるのでお前はそこを目指せと言われ、高校当時から自分ほそこに行くものだと決めていました(入社できるかどうか分からないのに変な話ですが)。そして何とか電電公社に入社でき、訓練後に庄原電報電話局に配属になり、昭和四十七年に受験して調布市にある中央電気通信学園大学部(前身は通信官吏訓練所(通称、官練))に入學したわけですが、ここでは二年間全寮制で学び、学業だけでなく、体力面でも腕立て伏せ、腹筋、逆立ち、水泳と鍛えられました。昭和四十九年大学部卒業後は、主に電気通信サービスの制度料金の分野に携わり通算すると二十三年になります。この料金制度の仕事は、専門性が高く五年は経験しないと一人前にはならないと言われ夜遅くまで上司に厳しく鍛えられました。よく耐えてきたものだと思います。今から思うと少年期に母の苦勞を見てきて「お袋が悲しむよいうな事はすまい」という気持が強く働いて

いたような気がします。自分が親になり、子供達にこのような話をすることもありですが、「今は時代が違うのだから、そんな話は通用しないよ」と一蹴される始末で、今の時代粘り強さとか忍耐力をどう養ったら良いのか気掛かりです。経済的には豊かになった反面、逆に精神的には大切なものを失いつつある感じがします。私も来春には五十五歳ですので一旦今の会社を退職し、どこかの会社に再雇用されるでしょうが、自分の今後の行き方を含め考えさせられる此の頃です。

## 東京在住2年目を迎えて

農村の現状と展望

五十七年卒

麻田 裕 二



〔略歴〕  
西城町出身近畿大学農学部卒業後、広島県に入庁、平成十七年四月から広島県東京事務所勤務

昔懐かしい格致高校への通学は、自宅から自転車で一・五km程、雨の日も雪の日も駅に向い、西城駅から汽車(SLではなくディーゼル車)に飛び乗り高校への通学でした。もちろん当時はまだ、駅には駅員さんもおられ、芸備線の本数も多くありましたが、今ではかなり少なくなっています。このディーゼル車を利用した時に、時間帯によっては、レトロな車両(内装が木製の時代を感じる車両)に乗れる事もあり、その車両に乗ると非常に温かみのある、心地よい気分だった事が印象的でした。

現在では、高速道路網の整備により広島中心部と庄原間はJR(芸備線)を利用するより、高速バスを利用した方が非常に便利なため、なかなかJRを利用する機会も少なくなっています。  
東京への転勤となって二年目を迎えますが、東京で生活しての感想としては、新

しいビルの屋上には、工事中のクレートの多さとともに、経済発展等のスピードの早さには目を見張るものがあります。この事は、なかなか、地方に住んでいては感じられない事です。

広島県は、86市町村あったものが、市町村合併により現在では、23市町となっています。平成十七年三月三十一日には、庄原市が比婆郡5町・総領町と合併しましたが、十年前でさえ、このような状況になるとは予想もつかなかったと思います。しかし行政改革は進む一方で、農村社会においては変革がななく、年々高齢化が進み、職を求めて若者は都会に出るといふことには変わりはありません。地域活動を行うにしても人がいないというところが、集落の中で増えてきています。この現状の中では、県北地域の人口減少に歯止めがかからない現実があります。

私が子供の頃、野生の動物を見た経験や農作物への被害の話もあり聞きませんでした。だが、今では私の実家の集落でも、夏になると、水田の周辺を電気柵で囲い、イノシシ対策をしないとお米に被害が出る状況です。また、近年県内島しょ部地域も同様にイノシシの被害が問題になっていきます。戦後国策として、従来は多くあった広葉樹の代わりに、杉や檜の植林を積極的に進められましたが、国産木材価格の低迷により、経費をかけて山の手入れをしても採算が取れないため、山全体が荒れてくると同時に、条件の悪い農地や山林が荒れ、広葉樹も少なくなり動物達の餌の減少が人里に現れている原因と考えられます。

しかし、これからの農村も今展望があるのではないのでしょうか？  
現状のままでは農村の維持は困難だと思えますが、この二、三年の間に団塊の世代が定年退職を迎える中で、まずは交流から定住につながる農村サイドでの仕組みと受け皿づくりが必要と思われます。また県内の民間企業の中でも規制緩和により農業に進出を模索しているところもあります。このような新たな動きもある中で農村の活性化につなげていく必要があると思います。

自動車販売会社

株式会社 ヨシダ

代表取締役 吉田 玲 咲

(昭和47年卒)

〒123-0844 東京都足立区興野1-15-10-203

TEL・FAX (03) 3840-0977

携帯 090-4713-0977

E-mail:y.reiji@helen.ocn.ne.jp

どんな小さな工事・修理でも、お気軽にご相談ください

ガーデン&エクステリア

0120-454295 お気軽にどうぞ

株式会社 八王子装建

代表取締役 西谷 光 徳 (昭和46年卒)

諸官庁工事指定店 10年保証 お見積り無料 迅速対応

八王子市宇安町1-32-19 TEL 0426(45)4295 FAX 0426(44)8549

### 長井一美さん(昭和十五年卒)を偲んで

二十五年卒 室 伏 孝 一

旅行から帰国し、長井先輩が七月十九日に亡くなったとの突然の訃報に驚いております。

長井さんとは、東京格致会のゴルフコンペ開催当初からご参加いただき、ご自身のホームコース「源氏山GC」をお世話くださる等、後輩の面倒をみていただき、お歳に似合わぬ豪快なショットでドラコンを獲られることもありました。

昨年も総会に出席され、一度、築地の「龍寿司」へ行きたいと言われながらも早めにお帰りのなったのは、少し体調を崩しておられたのかと今になって思います。心から御冥福をお祈り致します。



新、庄原市が誕生(05年3月31日)してから、早くも一年半が経ちます。今回は、庄原市のホームページや中国新聞のニュース等から庄原市にまつわる記事をまとめてみました。

まず、市章を紹介しましょう。



市章をカラーで目に掛けられないのが残念ですが、庄原の「し」をモチーフに、中国山地の里山を舞台として、文化や自然、そして人々の愛をやさしく育みながら、未来へ飛躍していく想いを表していると説明されています。

文化と人々の温かさ・やすらぎを表している中心の球体はやまぶき色で、それを包むようにおおっているのは若葉色で、里山の自然や新鮮さ、チャレンジ精神を表現して

いるとのこと。

次に、市のイメージにふさわしい「市の花」と「市の木」が市民を対象とした公募の中から選定され、この8月1日に告示されました。

市の花は「サクラ」、選定理由は「市内の随所に植えられるなど、古くから多くの市民になじみ親しまれています。これからも市民みんなで大切に育てていきたいという気持ちをこめていきます」

市の木は「ブナ」が選ばれました。選定理由は「市内を流れる西城川の水源でもある中国山地に、豊かなブナの純林を形成し、全国有数の天然記念物として大切にされています」

庄原市の雄大で懐深い自然の象徴として「ブナ」ところで、皆さんは自分の故郷(旧七市町)の花と木は記憶にありますか……。参考までに列記してみます。

- 庄原—さくら・ツツジ、松
- 西城—タニウツギ、イチジ
- 東城—コブシ、ヤマモミジ
- 口和—マンサク、アベマキ
- 高野—シヤクナゲ、イチヨウ
- 比和—コブシ、ブナ
- 総領—セツブンソウ、ヒノキ

今一つ、サクラの名所として有名な上野公園内に「富楽」と呼ばれる中国風の休憩施設があるのをご存知でしょうか。これは、1990年(平成2年)9月に庄原市と中国四川省綿陽市の間で、経済技術友好協定が締結されており、その10周年記念事業としてつくりられ、平成13年5月に完成したものです。名前の「富楽」は、綿陽市の景勝地である「富乐山公園」から二文字を拝借したことです。(綿陽市には同じ記念事業として、「綿陽庄原友好小学校」が建設されています。)

—(事務局)



### 東京格致会第三十二回ゴルフコンペ

四十七年卒 奥 重 秀 彦 (ゴルフ同好会 幹事)

東京庄原格致と名前が変更になってから、昨年の十一月と今年6月に、千葉セントラルゴルフクラブでコンペを開催しました。参加人員は昨年二十四名、今年は予定を上回る三十二名の申し込みがあり、ゴルフ場の確保に苦労しましたが、最終二十七名と人数は減りましたが無事開催することができました。親睦の意味も含めて実業卒の方、及びご家族の方にも参加いただきました。

昨秋の優勝者は吉田玲児(四七卒)さん、準優勝は清水虎夫(実業)さんでした。今春は優勝、寺川勝海(三七卒)さん、準優勝、生田八洲紘(三三卒)さんでした。今春のゴルフコンペはベストスコアが3名もでる白熱したコンペとなりました。また、参加者の中には、ご夫婦で参加された方もあり、和やかに開催することができました。これも参加者全員のご協力によるものと感謝いたしております。

### 《次回コンペのご案内》

次回のコンペ(第三十五回)は平日の開催となります。

日時・コースは次の通りとして準備を進めております。多数の皆さんの参加を期待しております。

日時 十月二十六日(木)  
場所 大厚木カントリークラブ 桜コース  
厚木市上荻野4088

(TEL046-241-3141)

なお、これまでの参加者の方には改めてご案内を差し上げますが、その他の方で参加してみようとお考えの方は、



二階堂調剤薬局グループ

代表取締役 薬剤師

石井 美佐子

(昭和48年卒)

二階堂調剤薬局  
まへの薬局  
大山調剤薬局  
グリーンファーマシー

東京都板橋区南常盤台 1-30-21 TEL 03-3958-9396

現場力のあるアロマセラピストを養成する

株式会社 ビューテジオ



Athera College of Aromatherapy

学長 福場 美知留

(昭和45年卒)

〒150-0036 東京都港区南平台町12-11

TEL: 03-3476-0037

FAX: 03-5784-3036

☎ 0120-311-298

http://www.athera.jp

幹事・寺川勝海（三十七年卒）  
 電話0462-411-9569  
 まで、ご一報下さい。詳細をお知らせ致します。  
 実力にはこだわらず、あくまで懇親を目的としておりますので、多数の方の参加をお待ちしております。



**第四回親睦バス旅行同好会便り**  
 常磐自動車道を走る

三十三年卒 森 沢 進  
 （バス旅行同好会 幹事）

去る四月二十三日・日曜日に第四回目となる親睦日帰りバス旅行会を実施しました。週間天気予報では、当日の天気を雨としましたので傘を用意した方もいましたが、実際には好天に恵まれうれしい誤算となり、終日、行楽日和に恵まれた楽しい旅行会になりました。  
 老若（？）男女十九名（女性三名）が早朝の東京駅丸の内南口・丸ビル前に集合、八時過ぎに一路、常磐自動車道を笠間市に向かっ

て出発しました。車中で室伏孝一さん（昭二十五年卒）から、笠間焼きの説明を受け、期待にワクワクするうちに十時前に目的地の「大津見窯」に到着し、田中ご夫妻の迎えを受けました。

田中教克さんは亜細亜美術校友会常務理事をされており、御自身の作品で総理大臣賞を受賞されております。御夫人が室伏さんの御親戚（父上が庄原市本郷町の出身）という御縁から、今回の旅行会に多大のご協力をいただいたものです。田中ご夫妻の指導を受けながら、各自自慢の作品作りに没頭して、予定の二時間があっという間に過ぎてしまいました。こんなに集中したのは人生久しぶりだったようです。

この日の作品は、今秋の総会の時に始めてお披露目することにしております。皆さんに鑑賞していただき優秀作品を決めたいと思っております。

作品作りが終ったところで、宍戸ヒルズカントリークラブに移動し、楽しい昼食会。ここでもメンバーの室伏さんのおかげで、支配人からの多大のサービスをいただきました。

食事でホット一息の後、日本三大名瀑の一つである袋田の滝を見学しました。飛沫を浴びて身体を清めた後東京駅に向かったの帰路に就きました。車中ではのど自慢の会員によるカラオケ大会・江角幹夫さん（昭和三十六年卒）による綾小路きみまろ流漫談で大いに盛り上がり、楽しい一日の

**基金への御協力**

ありがとうございます

昨年来、次の方から出資いただきました。ありがとうございます。

- 飛谷安宣様（昭和三十二年卒）
- 木村君枝様（昭和三十九年卒）

この基金は、会の基盤的経費に充当するこ

締めくくりとなりました。

\*このバス旅行は、年一回実施しております。次回の旅行に参加してみたいと思われる方は事務局に連絡の上登録してください。御家族・御友人も大歓迎です。登録いただいた方には、次回の内容が決まり次第ご連絡致します。出欠はその時の都合で結構です。



大津窯工房にて



袋田の滝を背景に

ととして、平成五年に創設されたもので、現在四十万円余の残高となっております。この基金をもって、「会員名簿」作成費等に充当しております。  
 今後とも、多数の方からのご協力をお願いします。

（趣旨に御賛同いただける方は、年会費とともにお振込みいただくか、事務局まで御一報ください。）



庄原さくら温泉  
 簡易保険加入者福祉施設  
 庄原簡易保険総合レクセンター

**かんぽの郷 庄原**

〒727-0004 広島県庄原市新庄町281-1

TEL.0824-73-1800 FAX.0824-73-0100

<委託運営会社> 株式会社サンヒルズ庄原

代表取締役 **和泉雅夫**

（昭和34年卒）

**宝 石 専 門 店**

J E W E L R Y

**miwa**

東京都中央区銀座6-7-2

TEL. (03) 3572-5011

http://www.miwaj.com

# 楽しい囲碁同好会

五十二年卒 坂部賢治

毎月の第2日曜日、新宿に在る「喜楽」と言う囲碁クラブに通い始めて1年になります。

そこには懐かしい「広島弁」丸出しの楽しい人たちが居ます。月に一度、格致会囲碁同好会のメンバーが集まるのです。

方言と言う故郷の言葉がこれ程、暖かく感じられるとは思いませんでした。今、自分自身が身を置いている社会とは全く違う、利害関係の無い、同じ故郷を持つ人達の集まりです。

昨年10月から参加させて頂き、現在7段で打たせて頂いております。大学時代を棒に振った成果でしょうか？とにかく楽しいひと時です。

参加のきっかけは、やはり格致会の会報で囲碁同好会の存在を知った事です。

そして、母校を卒業した同じ年齢に私の息子が成った事でしようか。

私と私の両親、息子と私達夫婦。高校を卒業という同じ道を辿り、立場が変わり、当時を振りかえり、歳月の流れを感じずには居られません。

両親が私に何を思い、何を考えて来たのか？息子を思う時、今更ながら親に感謝です。親が子供に与える愛情は無償であり、何の見返りも期待せず、ただ与えるだけの愛情です。大切な事はその受けた愛情を知り、与え、教え、そして伝え続ける事だと思います。先祖の歴史、親の歴史、故郷の歴史、人として伝えなければならぬ事が沢山あります。そして継承する事が出来た時、それが歴史となる様な気がします。

永年、先輩の皆様が築き伝えてこられた「格致会」と言う歴史を継承するのも我々若年者の責務でしょう。

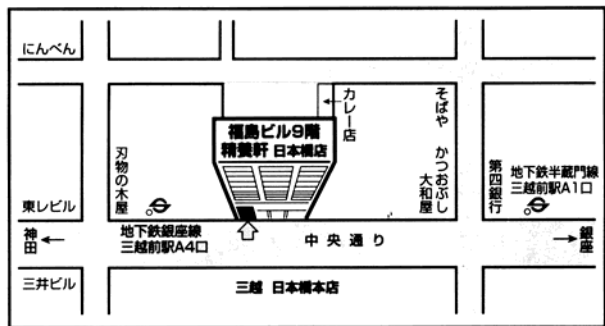
さて、囲碁同好会の話に戻りますが、今年の上半年は段位者と級位者がペアとなり、ペア戦を実施し、下半期は実力伯仲者のリーグ戦を行い、勝者によるトーナメント戦が行われます。半期毎に趣向を凝らし、我々新参者も楽しく参加させて頂いて居ります。

現在、囲碁同好会は17名のメンバーです。何かしら趣味を持つ事は、人生に於いて心のゆとりを持つ事に通じます。当同好会には、強力な師範がおられます。是非、皆様のご参加をお待ちして居ります。

10年後、20年後、きつと皆さんの人生を楽しくしてくれる最高の財産となる事でしょう。参加をご希望の方は事務局までご連絡下さい。

思いもよらず、寄稿の榮譽を頂戴致しましたが、乱筆何卒ご容赦下さいませ。母校、格致を卒業された皆様のご多幸を祈念申し上げます。

## 総会・会場のご案内



〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-5-3 福島ビル9階  
上野精養軒 日本橋店  
TEL (3241) 2741 FAX (3246) 2934

## 新しい会員名簿が出来上がります

去る6月、在京の卒業生の皆様に会員名簿への登載をお願いし、同封のハガキでのお返事をお願いしたのですが、残念ながら4割弱(270名)ほどの方からしか、回答をいただけませんでした。

回答いただいた会員の方については、ハガキに記載されている項目を、お返事のいただけなかった方については、依頼文でお断りしていただきました。住所・お名前のみ登録することとして、目下、編集にかかっております。(登録会員総数は約700名です)

来る総会の席で皆様にお配りできることを目標にしております。なお、出費多端の折、誠に恐縮ですが、名簿一冊について、千円(郵送の場合には別途送料二百円)をお願い致します。

(年会費2千円をお納めいただける方は合計額3200円となります)

## 編集後記

「東京庄原格致会会報」第一四号をお届けいたします。今回は「会員名簿」の更新作業と重複したため、かなりのハードスケジュールとなりました。これら皆様の皆様のご協力によるものと厚く御礼申し上げます。特に「会員だより」に投稿いただいた皆さん、本当にありがとうございます。

この「会報」のみならず、会の活動は、会員の皆様の積極的な参加があるか否かで、実りあるものになるかが決まります。死命を制します。

「国家の品格」(新潮新書・加藤正彦著)の中で、著者は日本人の誇りうる情緒「懐かし

さ」が、論理と合理に頼りすぎたことから引き起こされている現代世界の当面する苦境を救う一つであると述べています。そして、この懐かしさという情緒は「四つの愛」から構成されている。すなわち「家族愛」、「郷土愛」、「祖国愛」、「人類愛」を挙げ、かつその順番が大切であると訴えています。

いささか我田引水の水気もしますが、同窓会活動に参加して「郷土愛」、「母校愛」を認識・育むことが、現在のギスギスした社会を立て直す第一歩になるのではないのでしょうか……

このことから是非、事務局が発信しました回答用ハガキに一言書き添えて投函してください。それが会の活動の活性化の第一歩につながります。よろしくお願い致します。

最後になりますが事務局よりお願いを二つ、一つは「会報」への皆様からの投稿をお願いしております。趣味にかかわること、ベツトについて、可愛いお孫さんの写真入記事等々、自由に書いてください。

現在、一年に一度の発行の「会報」が「投稿の多さから、ついに年二回の発行を余儀なくされた」という話は、「母校の野球部がついに甲子園出場を果たした」と言うニュースとどちらが先に実現できるのでしょうか……

二つ目は、住所変更された場合には、ご面倒でも事務局までご一報下さい。毎年二十、三十人の方の宛先が不明になり、郵便物が返却されております。宜しくお願い致します。(事務局) 〒358-0011 入間市下藤沢一〇八四一B一一九 八谷英樹

「年会費」は、東京格致会の会報発行等の運営費を賄うための最も重要な財源です。御一人 二千円をお願いしております。お送りしております振替用紙で入金いただけますよう、よろしくお願い致します。